

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川厚生病院医誌 (2011.12) 21巻2号:51～55.

旭川厚生病院皮膚科における転移性皮膚癌28例の検討

西 薫, 中村 哲史, 水元 俊裕, 橋本 喜夫

旭川厚生病院皮膚科における転移性皮膚癌28例の検討

西 薫 中村 哲史 水元 俊裕 橋本 喜夫

要 旨

旭川厚生病院皮膚科の11年間における転移性皮膚癌について統計的、病理組織学的検討をおこなった。臨床型は結節型21例、炎症型6例、硬化型1例。病理組織学的検討では腺癌22例、扁平上皮癌3例、未分化癌3例。原発巣は乳癌、肺がん、大腸癌で多く、転移のしやすさをしめす転移指数は乳癌、腎癌、食道癌の順であった。

Key Words：転移性皮膚癌，転移指数

はじめに

転移性皮膚癌は原発巣発見前に、発症する例もあるため確定診断をすることは重要である。最近では病理組織検査の結果で治療法が決定されることもあるためその重要性が増している。

まず代表的な2例を報告し次に過去11年間における転移性皮膚癌についての検討を報告する。

症 例

症例1 52歳，男性

主訴 左背部の皮疹

家族歴 特記すべきことなし。

既往歴 平成11年に腎細胞癌を指摘され平成13年に切除。

初診時現症 背部に12mm 大で暗赤色境界明瞭な弾性硬の腫瘍を認める（図1 a）。

病理組織像 真皮全層に大型で明るい胞体を持ち、核異型をともなう腫瘍細胞を認める。

腫瘍細胞は表皮と連続性はなく、腫瘍は大小の胞巣を作っている（図1 b）。腎摘出した際の腎臓の細胞

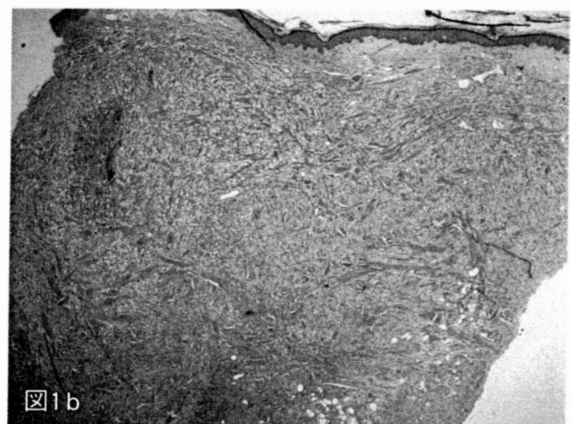


図1 症例1

a：初診時臨床像：背部 b：病理組織像

の病理組織像と比較すると、同様な形態をしており、免疫染色で両組織ともサイトケラチンのカクテル抗体である AE1/AE3 陽性、上皮膜抗原である EMA 陽性であった。以上より腎細胞癌の皮膚転移と診断した。

症例 2 64歳, 女性

主訴 左胸部の皮疹

家族歴 特記すべきことなし。

既往歴 平成15年8月左乳癌の手術。

現病歴 平成18年5月上旬左胸部の皮疹を認め当科初診。

初診時現症 手術瘢痕に沿ってわずかに浸潤のある紅斑をみとめる (図2 a)。

病理組織像 表皮に変化なく, 真皮中層にリンパ管の拡張をみとめ, その中に腫瘍細胞の浸潤をみとめる (図2 b)。HER2 染色陽性であった (図2 c)。

治療および経過 乳癌の皮膚転移と診断。外科でハーセプチン投与に加え放射線照射を開始。3週間後皮疹は消退した (図2 d)。

対象と方法

2000年1月から2010年12月までの期間に旭川厚生病院皮膚科を受診し病理組織学的に転移性皮膚癌と診断した28例を対象に検討した。なお本邦でのこれまでの統計学的報告に準じ, 血液系悪性腫瘍と皮膚原発悪性

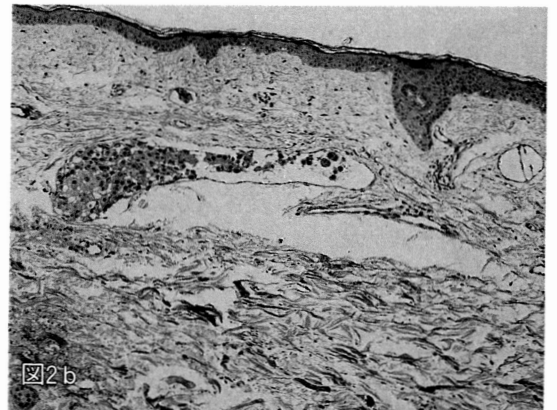


図2 症例 2

a : 初診時臨床像 : 胸部 b : 病理組織像
c : 病理組織像 (HER2 染色) d : 経過

腫瘍からの皮膚転移は除外した。臨床病型は過去の報告に準じて結節型（単発または多発性の境界明瞭な結節）、炎症型（環状紅斑，不整形紅斑，浸潤性紅斑，毛細血管拡張の目立つもの）、硬化型（強皮症様，瘢痕様の硬い局面を呈するもの）に分類した。

結 果

患者は34歳から92歳までの28人で平均年齢は67.4歳。男女比は15：13であった（表1）。転移までの期間は4年1ヶ月（14日～12年11ヶ月：2例は原発巣発見前に診断）で皮膚転移診断後から亡くなるまでの平均期間は9.3ヶ月（17例：2ヶ月～2年）であった（表2）。平均予後は原発巣の癌の種類で大きく異なり乳癌は14.3ヶ月で，その他の癌は6.7ヶ月であった（図3）。臨床型は結節型，病理組織は腺癌が多かった（表3）。部位別では体幹部の腫瘍発生数が多かったが，単位面

表2 平均予後

施 設	平均予後
川口とし子ほか ¹⁾	平均8ヶ月 (24例)
福井 佳子ほか ²⁾	平均5ヶ月 (32例)
菊池 康ほか ³⁾	平均6.3ヶ月 (29例)
石澤 俊幸ほか ⁴⁾	平均10ヶ月 (43例)
杉村 亮平ほか ⁵⁾	平均13.7ヶ月 (14例)
浜坂明日香ほか ⁶⁾	平均7.8ヶ月 (86例)
旭川厚生病院（本症例）	平均9.3ヶ月 (17例)

表3 臨床型、病理組織型

臨床病型		病理組織像	
結 節 型	21例(75%)	腺 癌	22例(78%)
炎 症 型	6例(21%)	扁平上皮癌	3例(11%)
硬 化 型	1例(4%)	未分化癌	3例(11%)

表1 転移性皮膚癌患者の内訳

No	年齢	性	転移部位	原 発 癌	組 織 像	臨 床 像	予 後
1	65	F	左肩	乳癌	腺癌	結節	不明
2	48	F	頭部	乳癌	腺癌	結節	8ヶ月
3	71	M	体幹	前立腺癌	腺癌	多発結節	1年7ヶ月
4	70	F	胸部	肺癌	扁平上皮	炎症型	4ヶ月
5	85	M	腹部，頭部	肺癌	未分化	結節	5ヶ月
6	62	M	胸部	耳下腺癌	腺癌	炎症型	3ヶ月
7	79	M	臍部	腓癌	腺癌	結節	4ヶ月
8	73	F	頭部	乳癌	腺癌	多発結節	不明
9	60	F	胸部	乳癌	腺癌	結節	1年2ヶ月
10	75	F	胸部	乳癌	硬癌	硬化型	2年
11	57	F	手首	乳癌	腺癌	炎症型	12ヶ月
12	66	M	鼻尖部	肝癌	腺癌	結節	7ヶ月
13	87	M	頭部	食道癌	扁平上皮	結節	不明
14	64	F	背部，胸部	乳癌	腺癌	炎症型	1年
15	60	F	背部，胸部	乳癌	腺癌	炎症型	1年4ヶ月
16	94	F	頭部	大腸癌	腺癌	結節	不明
17	58	F	鼻尖部	肺癌	未分化	結節	2ヶ月
18	60	F	背部	卵巣癌	未分化	多発結節	8ヶ月
19	72	M	腹部	大腸癌	腺癌	多発結節	転院で不明
20	34	F	頭部	大腸癌	腺癌	結節	9ヶ月間生存中
21	46	F	胸部	乳癌	腺癌	結節	9ヶ月間生存中
22	81	M	上背部	食道癌	扁平上皮	結節	6ヶ月
23	58	F	胸部	乳癌	腺癌	結節	4ヶ月間生存中
24	57	M	背部	腎癌	腺癌	結節型	不明
25	81	M	背部	肺癌	腺癌	結節型	不明
26	67	M	右頬部	胃癌	腺癌	結節型	不明
27	92	M	腹部	横行結腸癌	腺癌	結節型	5ヶ月
28	66	M	右胸部	胃癌	腺癌	炎症型	9ヶ月

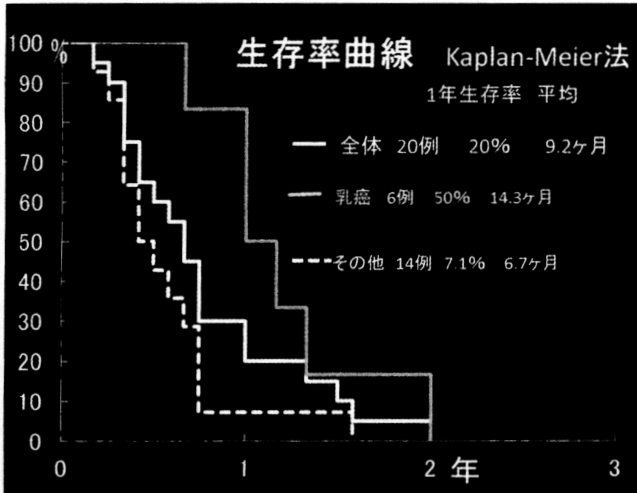


図3 生存率曲線

表4 原発巣の部位別頻度

部 位	症例数	割 合	体表面積あたりの比
頭頸部・顔	9例	32%	20
体 幹	18例	64%	10
四 肢	1例	4%	0.2

積当たりでは頭頸部の発生数が多かった(表4)。また原発巣は乳癌, 肺がん, 大腸癌の順で多いが, 転移のしやすさをしめす転移指数では乳癌, 腎癌, 食道癌の順であった(表5, 6, 7, 8)。

考 察

症例1は腎細胞癌の皮膚転移であるが他の癌と同様に放置すると腫瘍が増大, 出血, 疼痛を認めることが多いためQOLが著しく低下する。さらに他の内臓腫瘍と違い単発の転移巣であれば腎摘出すると生存期間が延長することが知られている⁸⁾。今回は原発巣が先に見つかったが, 皮膚転移が先に見つかれば腎癌の場合, 原発巣の手術により予後の延長が期待できる。

症例2は乳癌の皮膚転移であるが, HER2はEGFRファミリーのひとつであり, 細胞膜に存在する増殖因子である。非浸潤乳管癌で50~60%に陽性, 浸潤癌で20~30%に陽性である。大規模検討でHER2過剰発現はリンパ節転移陰性陽性群を問わず, 乳癌の予後不良因子である。進行乳癌ではHER2染色陽性かで治療方針が異なるため皮膚生検の結果が重要になることがある。

当院では消化器系癌の症例が多いが(表5), 転移

表5 旭川厚生病院における1年間あたりの癌件数(2003年4月1日~2011年3月31日までの平均)

	病 名	件	割 合
1	大 腸 癌	337	17.80%
2	胃 癌	318	16.70%
3	肺 癌	255	13.40%
4	肝 癌	173	9.10%
5	前 立 腺 癌	141	7.50%
6	卵 巢 癌	137	7.20%
7	乳 癌	127	6.70%
8	子 宮 癌	109	5.80%
9	膵 癌	109	5.70%
10	食 道 癌	99	5.20%
11	膀 胱 癌	67	3.60%
12	腎 癌	26	1.40%

表6 原発巣の部位

	原 発 巣	症例数	割 合
1	乳 癌	10	35.7%
2	肺 が ん	4	14.3%
3	大 腸 癌	3	10.7%
4	胃 癌	2	7.1%
5	食 道 癌	2	7.1%

表7 転移指数

	原 発 巣	転移指数
1	乳 癌	5.33
2	腎 癌	2.61
3	食 道 癌	1.37
4	肺 癌	1.06
5	胃 癌	0.43

表8 転移指数の比較

	藤岡ら ⁷⁾	浜坂ら ⁶⁾	自験例
頻度	胃 癌 16.1%	乳 癌 18.8%	乳 癌 35.5%
	大腸癌 10.3%	肺 癌 17.1%	肺 癌 14.3%
	肺 癌 10.2%	子宮癌 9.0%	大腸癌 10.7%
転移指数	乳 癌 3.2%	腎 癌 4.1%	乳 癌 5.3%
	腎 癌 3.1%	乳 癌 2.1%	腎 癌 2.6%
	食道癌 2.3%	肺 癌 1.2%	食道癌 1.4%

のしやすさをしめす転移指数（転移巣の発生頻度／臓器別の癌の発生頻度）では他の施設の結果と変わらなかった（表8）。また原発巣によって転移性皮膚癌の生命予後が異なることが示された。このように症例を多く集めることにより個々の症例ではわからない腫瘍の傾向が発見できることがあるため、統計的考察が重要である。

文 献

- 1) 川口とし子, 石井則久, 中嶋 弘, ほか: 手指足趾に生じた転移性皮膚癌の3例, 転移性皮膚癌21例の検討. 臨皮 43: 727-732, 1989
- 2) 福井佳子, 徐 信夫, 前島精治, ほか: 転移性皮膚癌32症例の統計学的観察. 皮膚 37: 534-543, 1995
- 3) 菊池 康, 松山麻子, 野村和夫, ほか: 青森県立中央病院

皮膚科における転移性皮膚癌の統計的, 病理組織学的観察. 臨皮 53: 977-981, 1999

- 4) 石澤俊幸, 安齋真一, 三橋善比古, ほか: 山形大学皮膚科における内臓癌皮膚転移の統計的観察. Skin Cancer 14: 178-182, 1999
- 5) 杉村亮平, 黛 暢恭, 杉村知美, ほか: 転移性皮膚癌の1例および当科における過去10年間の転移性皮膚癌14症例の統計的観察. 皮の科 5: 45-48, 2006
- 6) 浜坂明日香, 加藤直子, 秦 洋郎, ほか: 北海道がんセンター皮膚科における転移性皮膚癌86例の検討. 臨皮 61: 843-846, 2007
- 7) 藤岡 彰, 高須 博, 武村俊之, ほか: 過去25年間の北里大学皮膚科における転移性皮膚癌48症例の検討. 西日皮 60: 681-684, 1998
- 8) 富田善彦: 腎細胞癌有転移症例の治療. 臨泌 54: 829-839, 2000

Analysis of 28 Cases of Metastatic Skincarcinoma in the Asahikawa-Kosei General Hospital

Kaoru NISHI, Satoshi NAKAMURA, Toshihiro MIZUMOTO, Yoshio HASHIMOTO

Key Words : metastatic skin carcinoma, Transition index

Dept. of Dermatology, Asahikawa Kosei Hospital, 1-24, Asahikawa, 078-8211, Japan

We performed statistical and pathological study of the metastatic skin carcinoma in the Asahikawa-Kosei General Hospital. The order of the clinical types are nodular 21 patients, 6 patients inflammatory type, one case-hardening. The order of histopathological type are ade-

nocarcinoma 22 cases, squamous cell 3 cases, 3 cases of undifferentiated carcinoma. Primary tumor breast, lung and colon cancer. Transition index showing the ease of transition metastatic breast cancer, renal cancer, esophageal cancer was the order.